

“今週の国際宇宙ステーション(ISS)”

☆最初のISS構成要素打上げから2223日経過しました

☆第10次長期滞在クルーのISS滞在は67日経過しました

☆ISS動向

第10次長期滞在クルーのリロイ・チャオとサリザン・シャリポフ両宇宙飛行士は、実験とメンテナンスを行うと共に、クリスマスに予定されているプログレス補給船(16P)の到着に備えた準備を行って過ごしました。

科学実験としてふたりは発展型超音波診断装置(ADUM)を使用した骨と腹部のスキャン実験を主に行いました。これは最低限の訓練を受けたクルーが地上の医師と協力をしながら医学的な問題を診断する能力を評価する試験です。

ふたりは、「カナダアーム2」(ISSのロボットアーム)の操作訓練を行いました。これはロボットアーム操作の技量を維持するために行われたものです。

また、プログレス補給船(16P)の到着準備として、ISS内の不要品をプログレス補給船(15P)に積み込む作業を続けています。

16Pは、2004年12月24日午前7時19分にカザフスタン共和国のバイコヌール宇宙基地から打ち上げられ、12月26日午前9時04分にISSとドッキングする予定です。

なお、16PのISS到着の様子は12月26日午前8時からNASA TVで生中継されます。

NASA TV <http://iss.sfo.jaxa.jp/gallery/video/live/live.ram>



©Energia

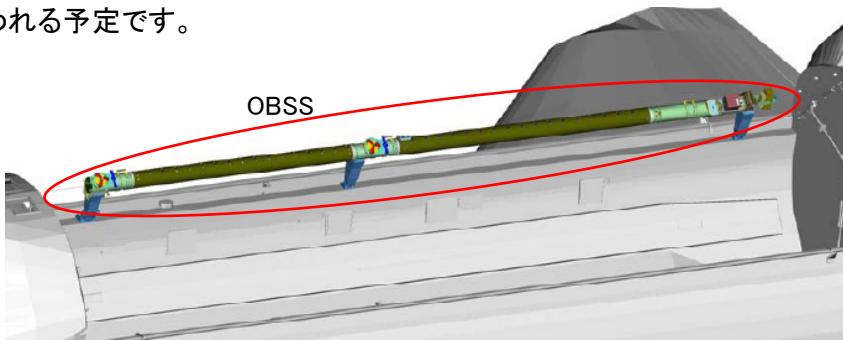
打上げ準備が進むプログレス補給船(16P)

“スペースシャトル飛行再開に向けて”

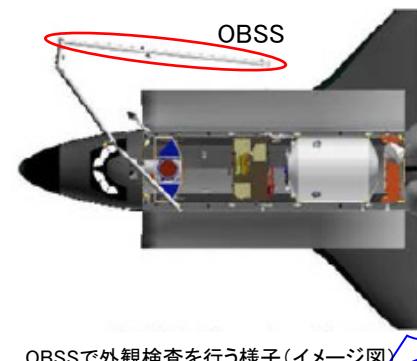
☆スペースシャトル外観検査用のブーム(OBSS)が開発されています

スペースシャトル飛行再開となるディスカバリー号には、軌道上で耐熱タイルなどを検査するためのロボットアームに取り付けて使用するセンサ付き検査用延長ブーム(Orbiter Boom Sensor System: OBSS)が搭載されます。このOBSSは、12月20日の週にNASAケネディ宇宙センター(KSC)に到着する予定です。

KSCに到着するとスペースシャトル組立棟(VAB)内のRemote Manipulator System labへ送られ、最終点検が行われる予定です。



スペースシャトルのカーゴベイ(貨物室)に設置されたOBSS(イメージ図)



OBSSで外観検査を行う様子(イメージ図)

“トピック”

☆「第2回航空機による無重力実験コンテスト」実験開始

JAXAが今年8月から9月にかけて募集した、航空機を利用した微小重力実験が12月10日から開始されました。これは、航空機を放物線飛行させることによって得られる数十秒間の微小重力環境を利用した実験機会を高専生・大学生などに提供するものです。

選定された6チームのうち、12月10日～13日の日程では学習院大学チーム、東京大学チーム、東京藝術大学チームの3チームが実験を行いました。

残りの東京都立科学技術大学、福井大学、日本女子大学は2005年2月頃に実験を行う予定です。

12月に行われた航空機実験の様子を下記URLでご覧いただけます。

http://iss.sfo.jaxa.jp/education/parabolic/2004/result_report01.html

JAXAでは今後も学生の皆さんに微小重力実験や宇宙実験の機会を設けていく予定です。



微小重力下での実験の様子



実験に参加した学生達

問い合わせ先: 宇宙航空研究開発機構 宇宙ステーション・きぼう広報・情報センター TEL: 029-868-3074

ホームページ <http://iss.sfo.jaxa.jp/>

Eメール kibo-pao@jaxa.jp

ウイークリーニュースマーリングサービス登録 <http://iss.sfo.jaxa.jp/weekly/index.html>

※「ISS・きぼう ウィークリーニュース」に掲載された記事を転載する場合、本ウィークリーニュースから転載した旨を記述ください。